

## 企業研究

## ソフトバンクBB株式会社 (Yahoo! BB)

2005年はトリプルプレイでの進展なし。2006年はいきなりグランドスラムとなるか

2005年度は、ADSL、FTTHともに加入者数に大きな変化はなく、積極的なPR活動も見られなかったYahoo! BB。2006年度は、携帯電話事業、動画配信事業の新展開に続き、ブロードバンド事業のサプライズは果たしているのか？

## 2005年度のADSLに大きな変化なし

ADSLの膨大な設備投資による累積赤字が事業として黒字転換した。昨年度は新規局舎の開設や消費者向けの大々的な営業活動を控え、回線利用料金の回収期に入ったといえる。昨年度の1年間で新規契約は27万弱であったが、12月には回線数が500万を突破、日本最大のブロードバンド事業者の地位は譲っていない。

サービス面に目を転じてみると、唯一ともいえるアップデートは、ADSLの弱点とされる上り速度を技術的に改善したサービスメニューの追加である。2006年初めに投入された「Yahoo! BB 50M Revo」は、従来の高速サービス「Yahoo! BB 50M」の上り速度3Mbpsを、約4倍の12.5Mbps（ベストエフォ

ート）まで向上させている（ただしNTT局舎から約800m圏内に限る）。

## 「健全な競争環境」にない

## FTTHには慎重

FTTHについては数字が公表されていないものの、2005年は新規の局舎敷設もさほど進んでおらず、ADSLからの乗り換えも促進していないことから、加入者数も伸びていないと思われる。ソフトバンクの孫社長は、NTTから光ファイバー回線を借りている現状では、価格面・プロセス面ともに不公平であるとし、竹中総務大臣との私的懇談会において、NTTからの回線部門の切り離しと共同出資会社の設立を提案している。こうしたFTTHに本腰を入れにくい現状が、FTTH事業の展開を慎重にしているものと思われる。

ソフトバンクは、ADSLをすぐれた技術であるとし、引き続きサービスを展開していくというが、5年、10年のタムで考えれば、FTTHへのシフトは明白であり、あらゆる選択肢に対して準備を進めてはいるようだ。すでに神奈川県において、NTTとのプロセス

も含めた自前の敷設によるFTTH接続実験も行っている。

昨年はADSL、FTTHともに営業を控えていたが、ビジネスとして成立させられる新しい方策が見つければ、ADSLの時のように一気に展開していく可能性はあるだろう。

## 映像系は「BBTV」から

## 「Yahoo!動画」へ

ADSLおよびFTTHサービスのオプションとして提供されている「BBTV」は、2005年7月にセットトップボックスを交換したことを機に全国へサービスを展開した。しかしながら、接続サービスに比べても利用者が伸びていないという。そこで現在では、ISPフリーで誰でも観ることができる「Yahoo!動画」へ照準を変えたようだ。

これまで有料配信を中心にしてきたYahoo!動画を、広告収入のビジネスモデルに切り替え、コンテンツの大半を無料で提供するほか、「TV Bank」からのコンテンツ調達や技術提携によるサービス強化を行った。また、世界最大規模の動画検索インデックスの早期構築にも取り組むとしており、通信事業者のトリプルプレイサービスの1つとしてではなく、総合動画ポータルを専門とするサイトへの大きなインパクトとなる。

## 資料4-1-10 Yahoo! BBの回線数推移

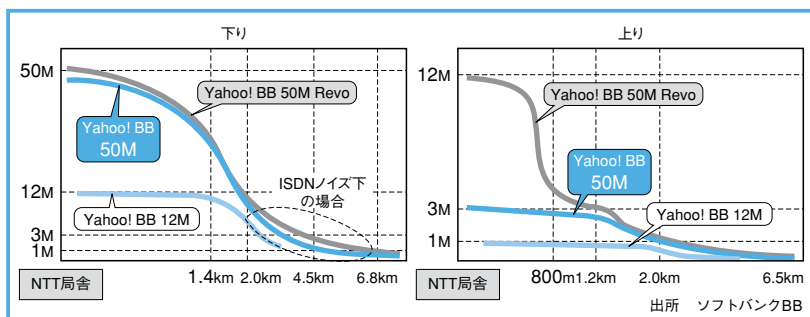
	回線数		接続可能局舎数
	Yahoo! BB ADSL接続	BBフォン	
2006年3月末	504.9万	481.6万	4,034
2005年3月末	477.6万	451.7万	4,006
2004年3月末	400.4万	378.2万	3,241

出所 ソフトバンクBB

※「Yahoo! BB ADSL」を対象とし、「Yahoo! BB 光」は含んでいない

※BBフォン回線数は、Yahoo! BB/BBフォンのサービスでBBフォンの登録が完了されている回線数

■ 図1 「Yahoo! BB 50M Revo」のNTT局舎からの距離とスピード相関イメージ



出所 ソフトバンクBB

## グランドスラムの展開は？

ポータフォンの買収によって、携帯電話事業への早期本格参入も決定し、FTTHのみならず「グランドスラム」としての総合サービスに興味を沸かせることである。常に、グループ企業によるNo.1戦略を打ち出してくるソフトバンクであるだけに、特に2006年後半はどのような、そしてどれほどの波紋を起こすか、その動向が注目される。

(取材・文 柏木 由美子)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)